



4月23日  
かもおか架け橋プログラム  
令和8年度 第1回 架け橋担当者会議

『かもおか架け橋プログラム始動』子どもたちの育ちと学びを共に見つめ、共により豊かにしようと考える仲間が手をつなぎました。架け橋期という大きな段差を、豊かにし、こども自身が架け橋期を「安心」して過ごし「挑戦」を楽しめるように支えていきましょう。互いに違う文化にふれ、その魅力にであい、互いの保育教育の質向上を目指しましょう。大人の学びあい、こどもの交流を通して架け橋期のカリキュラム作成を目指し、誰もが”こどもを真ん中”にした視点で亀岡の保育と教育を考える機会としていきましょう。

小学校・園の”架け橋担当者”が決まり、12のブロックが、「気軽にすすめよう!」「大人が楽しんでしまおう!」「無理はしないで!」「とにかくやってみよう!」とそれぞれのカラーで活動が始まりました。

「架け橋プログラムとは」 京都府南丹教育局指導主事 水嶋直美先生



未来を切り拓く子ども達に…

- 「自分の人生を”舵取り”する力を身に付けること」  
”舵取り”⇒操縦でも運転でもなく、自分で航路を考えて進んでいく力
- 「持続可能な社会の創り手になること」
- 「豊かな可能性を開花できること」

経済産業省「未来人材ビジョン」

好きなことにのめり込んで豊かな発想や専門性を身に付け、多様な他者と協働しながら、新たな価値やビジョンを創造し社会課題や生活課題に「新しい解」を生み出せる人材である。そうした人材は「育てられる」のではなく、ある一定の環境の中で「自ら育つ」という視点が重要となる。



幼児教育と小学校教育

幼児教育……「遊び」を通して生きる力の基礎を培う・方向目標

小学校教育…「教科学習」を通して生きる力を育む・到達目標

○入学時、頑張らせ慣れさせるのではなく、育ってきた力を無理なく生かせる道をつくろう

○10の姿を手がかりに、育ちをどう受け止め、どんな学びにつないでいくか考えよう



参加者の感想

- 子ども達のために、こうして大人が場を共有し、共通の学びができたのがよかった。期待が膨らむ。
- 子ども達が安心して次のステップに踏み出せるよう、大人が架け橋となれるよう、つながる機会を大事にしたい。
- 改めて10の姿について考えた、架け橋のゴールを見つけることが、授業を組み立てる上で大切だと感じた。
- 担当になって、どうしたらよいか不安もあったが、お話をききイメージでき、安心し、少し見通しがもてました。
- 架け橋プログラムの大切さがわかりました。園の学びと学校の学びのつながりを話すのが楽しかった。



- ひとつひとつの取組で何を大切にするのか話しながら進めたいです。
- 肩をはずすに、もっと、ゆっくり話してお互いのことを知りたいです。
- ブロックでの集いも大事だが、全体で集まり情報交流ができる場があると嬉しい。

